

会 議 録

平成 2 8 年度第 2 回藤沢市子ども・子育て会議

- 日 時 2 0 1 7 年 (平 成 2 9 年) 3 月 2 4 日 (金) 9 : 3 5 ~ 1 1 : 3 5
- 開催場所 藤沢市保健所・南保健センター 3 階研修室
- 出席者 1 5 名
- 傍聴者 2 名
- 議 事 (1) 副委員長の選出について
(2) 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員の設定について
(3) その他
- 報告 (1) 特定教育・保育施設等の利用者負担額 (保育料) の見直しについて
(2) 藤沢市保育所整備計画 (ガイドライン) の進捗状況及び地域型保育事業との連携等について
(3) 直近における保育所等整備に係る方針について
(4) 子ども青少年部に係る平成 2 9 年度予算について
(5) その他

議事 1 副委員長の選任について

委員の互選により、竹村委員を副委員長に選任

議事 2 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員の設定について

(事務局) 橋本より資料 1 により説明

< 議事について委員からの意見・質問等 >

(桝居委員)

認定こども園となる広田幼稚園は、土曜日開所をする予定はあるのか。近隣保育園の状況を見ても、土曜日開所のニーズはあると思っている。

また、給食の外部搬入は人数の調整や細かな対応が難しいが、中学校などでも給食の外部搬入を行っているが連携を検討できないか。

(事務局)

現状、幼稚園側の職員体制等が整っていない状況であり、平成 3 1 年度までの経過措置として土曜日開所を条件としています。

また外部搬入については、一般の飲食店など 2 つの業者から搬入予定です。

(榎居委員)

認可保育園等でも外部搬入はできることになっているが、できるだけ良い給食提供に繋がれば良いと思っている。

(平岩委員)

土曜日開所のニーズは市としても把握をしており、平成31年度までには土曜日開所ができるよう十分に調整を行っていききたい。また、食育の提供についても大切であると考えており、事業者と十分に調整をしていききたいと考えている。

(杉淵委員)

保育士の配置基準を教えてください。また、給食の外部搬入は、食育が重要視されている中で、それを認定した市の判断には疑問を感じることもあるが、献立メニュー、適量、質のバランスなどを、市としても確認してほしい。また、外部搬入では保護者の負担も増えると思うので、経済的な面も伴っているのかも確認してほしい。

(事務局)

公立保育所の保育士の配置基準は、0歳児3名に対して保育士1名、1歳児5名に対して保育士1名、2歳児6名に対して保育士1名、3歳児20名に対して保育士1名、4・5歳児はそれぞれ30名に対して保育士1名となっています。

(杉淵委員)

土曜日も保育園に通っていたが、転園後に少し手がかかる子だと言われ、土曜日の利用は月に2回しかできなくなってしまったという相談を受けた。公立に限らず、どの保育園でも土曜日を利用できるよう指導をしてほしい。保育士が足りない現状もわかるが、ぜひ頑張してほしいと思う。

(事務局)

保育士の加配は園や保護者からの申請に基づき、配慮が必要なお子さんについて、保育課の担当と経験豊富な保育士が判断しています。加配が必要となれば、そのお子さんの対応は可能ですが、土曜日の保育は多くの園で乳児と幼児を同じ保育室で行っています。配慮が必要な児童には、担当の保育士がきめ細やかな保育を行っており、土曜日においてもその保育士が保育を行うことが好ましいとされていますが、土曜日勤務をすることで平日にお休みを取る等の対応が必要となります。現状、多くの園で保育士不足の現状があり、園によっては加配の保育士が休みを取得することが難しくなることもあり、場合によっては土曜日の受入をお断りしているケースもあるかもしれません。できるだけ、保護者の希望に添えるよう調整はしていきたいと思いますが、どの園も保育士が不足しているという現状を、ご理解いただきたいと思います。

(事務局)

2点目の外部搬入についてですが、認定こども園は神奈川県が認定していますが、その認定に際しては市としての意見も述べており、子どもにとってより良い給食が提供されるよう、栄養面、楽しい給食の時間になることなどを意見として述べています。広田幼稚園は、現状、調理設備がなく、すぐに自園調理を行うことは難しい状況です。4月以降、1号認定児においては週2日お弁当を持参することになりますが、2号認定児については、すべての日で外部搬入することとなります。広田幼稚園は給食事業者からの搬入のほか、週2回、洋食屋さんからの搬入も行っており、それを1つの楽しみとして提供をしています。今後は在園の保護者などから、外部搬入のあり方について意見交換などできれば、それを運営に活かしていきたいとは思っており、今後も、事業者と意見交換を行っていきたいと考えています。

(杉淵委員)

認可定員が340名ですが、定員が毎年少なくなっていたから、2号認定児の受入をするのか、地域のニーズがあって受入をするのか、どちらでしょうか。

(事務局)

児童が少なくなってきたために認定こども園になるという認識はしておりません。湘南台地区は保育のニーズも高く、0歳～2歳児までの保育施設である小規模保育事業の開設も進めており、こういった施設との連携も担っていただきたいこと、また、現状でも延長保育や夏休みの預かりもされていることから、認定こども園への移行を検討されたと認識しています。

議事3 その他

特になし

報告1 特定教育・保育施設等の利用者負担額(保育料)の見直しについて

(事務局) 橋本から資料2-1～2-4により説明

<報告について委員からの意見・質問等>

(杉淵委員)

保育料の値上げはしてほしくないと、どこのご家庭でも思っていることだと思います。現在、保育料の滞納世帯数はどのくらいの割合なのか教えてほしい。

(事務局)

家庭数を把握しておりませんが、保育料の収納率が99%であることから、全体の約1%

の方が滞納されていることとなります。

(杉淵委員)

約1%とは、概ね何世帯か。

(武井委員)

昨年度決算における滞納者数 67,607件(児童1人1件)中、853件です。

(杉淵委員)

これは、すごく大事なことなのできちんと把握し、収納率100%を目指してほしい。

(武井委員)

前年度は、口座振込の利用などにより99%を確保できたが、退園された方の徴収の難しさを感じており、まずは在園者の収納率を上げることを優先に考えていきたい。

(榎居委員)

藤沢市の多子軽減の基準は、国基準と比べてどういった特徴があるのか教えてほしい。

(事務局)

これまでは第2子が第1子の50%~60%の金額でしたが、これを50%に改定し、また、第3子は無料となっています。

低所得者階層は、国基準どおりとなっています。

(平岩委員)

藤沢市では第2子が第1子の50%~60%の保育料となっておりますが、国の徴収基準額は平成27年4月の新制度が開始されてから、第2子は第1子の半額としております。藤沢市では、国の徴収基準額からさらに引き下げをした保育料を設定していたため、第2子は今までの基準を踏襲し、第1子の50%~60%の保育料を設定しておりましたが、今回の保育料改定に合わせ、藤沢市の第1子の50%に設定させていただくとともに、低所得者層において国が行っている軽減策に合わせ、改定を行うものです。

報告2 藤沢市保育所整備計画(ガイドライン)の進捗状況及び地域型保育事業との連携等について

報告3 直近における保育所等整備にかかる方針について

(事務局) 須藤から資料3-1、3-2、4により併せて説明

< 報告について委員からの意見・質問等 >

(杉淵委員)

基幹保育所に配置されている保育士の経験値と勤務形態はどのようなものか。また、藤沢保育園では子育て支援センターを併設しているの、そことの連携を行うことができるのではと思うが、なぜ藤沢保育園に2名配置するのか、理由があれば教えてほしい。

(事務局)

現在、配置されている保育士は、公立保育園において長く主任として勤めていた職員と、20年以上の勤務経験のある担当者を配置しており、藤沢保育園においても同様の配置を考えています。今後は、しづやがはら保育園を北部の基幹として位置付け、藤沢保育園については小規模保育事業の整備も進んでいることから、南部の基幹として位置付けるものです。また、藤沢保育園については子育て支援センターが併設していることから、現在も交流を図っており、今後も子育て支援に活かしていきたいと思えます。

(武井委員)

保育士は毎日2名出勤しており、1名が管理職、もう1名が担当者という配置です。

(杉淵委員)

今回の会議で、基幹保育所の具体的な活動を教えてください。

(榎居委員)

計画の見直しを待っている間に合わないという説明があったが、計画の見直しが先ではないか。まずは就学前児童の人口推計はどうなっているのか、保育園を希望しているかなど、全体的な量の見込みの具体的な数字を資料に入れて説明するとわかりやすいと思う。国からも中間年の見直しに当たったの通知が出ており、藤沢市の作業がどの程度進んでいるのか教えてほしい。

(事務局)

国の通知に基づく見直しについては、すでに作業を進めています。しかし、結果として国通知どおりのやり方で見直しを行うと、実際の保育の需要よりも少なくなってしまうことが判明したことから、今後は、実際の保育需要に沿った形でどのように補正を行っていくかを検討しているところです。

(榎居委員)

市として作業を進めているということだが、量の見込みや各年齢区分のニーズ割合について計画の見直しに向けての作業の状況を子ども・子育て会議でも報告してほしい。

また、厚生労働省が待機児にカウントされていない育休中の者の数なども集計した全国市町村の「申込者の状況」(平成28年4月1日)を出している。厚労省の発表したデータ

で顕在化した市の状況は、子ども・子育て会議に報告すべきではないか。

(事務局)

待機児童の新たな定義については、現在国において見直し作業を進めており、まだ国から新たな定義は示されていない状況です。また待機児童に関わる数字の公表は、政令市を除き、神奈川県が一括で公表をしている状況です。藤沢市の待機児童数公表につきましては、6月議会のタイミングで公表をしています。

(平岩委員)

待機児童数については、自治体間でカウントの考え方に違いが生じており、国として統一的な基準を出すことが示されているところですが、詳細はまだわかっておりません。藤沢市においては、当初の計画から前倒しで保育所等の整備を進めてきましたが、さらなる需要が出てきている状況であり、実態を踏まえ、適切な整備を進めていきたいと思っております。

(榎居委員)

今現在の量の見込みを出しているのであれば、それを出してほしい。

(事務局)

藤沢市子ども・子育て支援事業計画において、各年度の量の見込みと確保方策について記載をしており、この中で3号認定の児童の保育提供率の目標値を定めています。この計画の策定にあたり、藤沢市独自の人口推計を用いることを考えていましたが、平成26年4月1日時点の住民基本台帳の人口と独自の人口推計とを比較した結果、住民基本台帳人口の方が1,000人近く児童数が多かったことから、藤沢市子ども・子育て支援事業計画策定当初から、住民基本台帳上の人口を用いて計画を策定しております。また、量の見込みは、アンケート調査に基づき抽出したところですが、実際には保育需要は高まっていると思っており、実態に即した見直しを現在行っております。計画の見直しを待っては間に合わないことから、平成30年4月に向けた待機児童対策として、計画見直しと並行して保育所の公募を行っていくことを説明させていただきました。事業計画の見直しについては、平成29年度中に平成30年度以降の2ヶ年分の量の見込みと確保方策について見直しを行っていく予定です。

(榎居委員)

例えば横浜市では、1・2歳児の保育ニーズを40%に見込んでいることなどが出るので、そういった数値を出してもらえればと思っている。

(平岩委員)

国の基準と藤沢市の実態が違うところがあり、来年度の見直しにあたっては、基本とな

る資料を見せて議論いただきたいと考えております。

(渡辺委員)

子どもも、働く親も増えている現状を感じており、私は保育園の設置場所や、認定こども園の場所やスピードも、藤沢市のニーズにあっていると感じている。こういった場ではきめ細やかなサービスに対する要望は出やすいと思うが、現実的にはここまでしかできないということが多くあると思う。しかし、それでもここまで器を広げていることが大事だと思っている。また、細かな要望にすべて対応していった場合、働く現場の体制として回らなくなることもあると思う。絶対に外してはいけない部分はあるが、ここまでしかできない、という判断はあって良いと思う。そのあたりのバランスをとって進められれば良いのではないか。

報告4 子ども青少年部にかかる平成29年度予算について

(事務局)川口から資料5により説明

<報告について委員からの意見・質問等>

(有田委員)

広報で組織改正の記事が載っており、子育て企画課に貧困対策が明記されていましたが、具体的なことを教えてほしい。

(事務局)

子どもの貧困は、藤沢市子ども・子育て支援事業計画にも記載をしておりますが、柱立てが薄く、まずは事業の体系図を作成し、その中で藤沢市としてどのように貧困対策に取り組んでいくのか、今の制度で足りないものは何かを平成29年度に検証していきたいと考えています。

(平岩委員)

子どもの貧困対策に関しては、さまざまな課がさまざまな形で取り組んでおり、貧困の窓口を担う部署、庁内の相互調整を担う課が必要ということもあり、子育て企画課に位置付けられた。また、全庁的な施策推進にあたっては、藤沢市子ども・子育て支援事業計画にも体系図を盛り込み、各課がどのように取り組んでいくのかを明確にしていきたいと考えている。

報告5 その他

(事務局)橋本から藤沢市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しを予定しており、来年度第1回目の会議で提案をしていきたいこと、来年度の会議は4回程度を予定してい

ること、平成29年7月末に委員の任期が満了すること等を伝える。

<全体について委員からの意見・質問等>

(有田委員)

幼稚園での食育や質等の給食の実態は把握されているか。

(事務局)

市として幼稚園の給食の実態について把握していません。

(平岩委員)

本日欠席ですが、黒岩委員には質問があったことを伝え、次回の会にはお答えいただきたい、また、場合によっては事務局側でも対応をする。

(梶ヶ谷委員)

来年度の計画の見直しについては、総括的な見直しできるよう、さまざまな視点での資料を期待している。

(佐藤委員)

さまざまな立場の委員が関わっているので、市としてどういった視点で子育てをしていきたいのか、保育の内容などを話し合っていけたら良いと思う。自分の子どももいつも楽しそうに保育園に通っていて、さまざまな事件もある中、ほとんどの園は保育士を含め、本当に頑張っていると思うので、私も含め、いろいろなところで協力していきたい。

(吉名委員)

幼稚園型認定こども園は良いと思っている。小学校に入学すると幼稚園の保護者同士で集まってしまう、保護者の中に入れたい親がいるという話を聞く。幼稚園に少しでも親が顔を出し関わることで、親同士の繋がりもできると思う。また、給食は大変有り難いと思っています。中学校では給食がないため、毎日お弁当を作ることが大変だと感じていて、たとえ外部搬入でも保護者は大変助かると思う。

(竹村副委員長)

藤沢市が子育て世帯を大切にしていることでの会議だったと思う。先ほど、渡辺委員がおっしゃったように、常にこの会議の方向性を考えるべきと思う。主眼としておいている方向性を見失ってしまうと、細かなことばかり議論になってしまう。事務局への願いは、積み上げてきたものを的確にはっきりと、自信を持って伝えていただきたい。細かい意見も大事と思う。それをどこまで拾うのが大事である。会議の回数についても、回数を増やした方が良いのではないのかと感じました。

(終了 午前11時35分)

以上